

＜日常生活の援助マニュアル＞

1. 栄養と水分

(1)食事

- ・食思不振、嚥下困難に対しては、無理やりの食事介助をせず、少しずつ回数を分け介助する
- ・好物、口当たりの良いものをメニューに取り入れる
（アイスクリーム、プリン、ゼリー等）
- ・上体を上げ、嚥下を確かめながら、時間をかけ介助する
- ・少しでも栄養価の高いものを利用（本人の好みにあうもの）
（カロリーメイトのコーヒー味、高カロリーゼリー等）

(2)水分

- ・むせる場合は、ゼリー等利用
- ・少しずつ、頻回に介助
- ・アイスキャンディー、かき氷等の試用

2. 排泄

- ・排泄物の観察（尿量・in/outチェック、形状など）
- ・オムツ交換は2人で介助
陰臀部の洗浄・清拭は手早く行い、背部など軽く手でさすり、痛みの緩和にも努める
- ・汚物はすぐに片付け悪臭の除去に努める
- ・意識がない状態であっても、必ず声掛けをする。

3. 清潔

(1)身体

- ・負担のかからないように2人で介助、手早く実施
- ・脈、呼吸状態の変化の確認
- ・更衣後のシワ等の確認
- ・発汗時はその都度、清拭、更衣
（頻回で更衣が負担になる様ならタオル挿入など臨機応変の対応をする）

(2)口腔

- ・基本は毎食後の時間帯に同じケア（紅茶を利用、ガーゼで拭き取る）
- ・くちびるの乾燥が強い場合も、毎食後の時間帯にリップクリーム使用
- ・自歯がある場合は、歯ブラシを使用

(3)顔、頭

- ・顔は通常通りの全面介助
- ・眼脂は拭き、綿にてその都度拭き取り、指示のある場合、点眼処置
- ・頭は、朝の洗面介助に通常通りの整髪、
- ・負担にならない程度に水のいらないシャンプーを使用

(4)寝具

- ・循環障害のため掛け物調整はまめに行う
- ・シワ、ごみ等の除去
- ・発汗が多い場合は、バスタオル等を利用
- ・枕カバーの上にフェイスタオル利用、汚染時そのつど交換

(5)環境

- ・室温、換気、採光の調節
- ・静かさを保つ（大きな物音、声に注意）
- ・ベッド周辺の整理整頓をする（心地よい環境にする）
- ・面会用イス等の準備
- ・処置用トイレのセット
- ・吸引機・酸素など医療機器がある場合、乱雑にならないように配置する
- ・電源コード、汚物入れなど、各勤務体で点検する